

県立高等学校再編将来構想（抜粋）

1. 構想の概要

● 構想の趣旨

高等学校全日課程への進学率の低下や県立高等学校における全県的な欠員の急増など、県立高等学校を取り巻く環境が大きく変化しています。また、今後、中学校卒業生数は、2035年度までに、2022年度入学選抜時と比べて13,000人程度減少し、現在の7万人から5万7千人程度になることが見込まれます。こうした厳しい状況を踏まえ、県立高等学校の役割を改めて見直しながら、2030年代半ばを見据えた全県的な県立高等学校の再編将来構想を策定しました。

● 構想の実施期間

2022年度から2035年度まで

● 構想の具体化に向けた今後の取組

この構想は、2030年代半ばを見据えた今後の魅力化・特色化、再編の将来的な取組の方向をまとめたものです。今後、県立高等学校を取り巻く状況は急速に変化していくことが予想されることから、取組の方向は、状況の変化に応じて常に見直ししていきます。特に、学校再編については、各地域における生徒募集の状況や経済、社会の変化も十分に踏まえながら、具体化を検討します。

● 県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編の5つのポイント

ポイント1

中学生が学びたいと思える学校づくりをすすめる

学科改編、新たな時代にふさわしい校名変更、入試制度改革 等

ポイント2

生徒が主体的に学べる学校づくりをすすめる

探究的、実践的な教育への変革、単位制の積極的な導入、夜間定時制の在り方の検討、昼間定時制や通信制サテライト教室の設置、少人数指導の導入 等

ポイント3

時代の変化に対応した、新しいタイプの学校づくりをすすめる

新しい普通科の枠組への改編、産業構造の変化に迅速に対応した専門学科のリニューアル、ICTを活用した遠隔授業の導入 等

ポイント4

地域の期待に応える学校づくりをすすめる

地域における各校の役割を踏まえた魅力化・特色化、再編

ポイント5

外部の専門機関と連携した、持続可能な教育体制を構築する

大学、企業、NPOなど、外部の専門機関との連携した取組 等

● 再編の考え方

今後の中学校卒業生数の減少を踏まえると、現状の学校数では、全県的に学校規模が小規模化して、1校当たりの生徒数や教員数が減少し、教育活動に支障を来す恐れがあります。そこで、地域ごとの中学校卒業生数の推移や中学生の進路動向等を総合的に勘案し、統合等による再編を進めていきます。

● 再編のスケジュール

中学校卒業生数の推移や中学生の進路状況は地域ごとに異なり、小規模化の進度や将来的な見込みも一律ではないことから、再編対象校は、適切な時期にその都度、決定し公表します。

● 再編の方法

地域における各校各学科の役割を踏まえつつ、前例にとらわれない、幅広い発想で再編を検討し、進めていきます。

● 山間部、中山間部、半島部など、地域の拠点としての高等学校の在り方

生徒が自宅から通学可能な高校に限られるとともに、高校の存在は、持続可能な地域づくりで重要な役割を担っています。このため、地域における学校の役割について、地元自治体などの関係者と継続的に協議し、地域とともに魅力ある学校づくりを協働して進めていきます。

● 県と市町村による高等学校の在り方に関する協議

今後の少子化や高校の小規模化の状況に合わせて、地域の高校の在り方について、県と地域の市町村等関係者で協議する場を設けます。

2. 学校の再編・統合

※2023年度実施分

● 稲沢・一宮地区 における統合 ⇒稲沢緑風館高等学校

稲沢高等学校・稲沢東高等学校・尾西高等学校を統合し、農業科と普通科の生徒が相互に学ぶことができ、進学から就職まで、幅広い進路ニーズを実現する、新たな学校を、稲沢高等学校校地に開校します。

現在の学校		新校（2023 年度開校）	
稲 沢 高等学校 (稲沢市)	農業科 4 学級	【想定学科】	農業科 4 学級
稲沢東 高等学校 (稲沢市)	普通科 3 学級		普通科 3 学級
尾 西 高等学校 (一宮市)	普通科 3 学級	【校 地】	稲沢高等学校

※学級数は想定

● 津島・弥富地区 における統合 ⇒津島北翔高等学校

津島北高等学校と海翔高等学校を統合し、普通科・商業科・福祉科を併置した新たな学校を、津島北高等学校校地に開校します。

現在の学校		➡	新校（2025 年度開校）	
津島北 高等学校 （津島市）	普通科 2 学級 商業科 3 学級		【想定学科】	普通科 2 学級
海 翔 高等学校 （弥富市）	普通科 2 学級 福祉科 1 学級			商業科 3 学級
				福祉科 1 学級
		【校 地】	津島北高等学校	

※学級数は想定

3. 時代の変化・地域の課題に対応した新たなタイプの学校の設置

※2023年度実施分

● 犬山南高等学校（犬山市） ⇒犬山総合高等学校

「デジタル社会に必要な DX 人材育成」と「地域の課題解決や新たな産業や会社の在り方を考え企画・実践できる起業家の人材育成」を柱とした、「生徒の新たなチャレンジを全面的に支える学校」を目指します。生徒が「分かる楽しさ・できる喜び」を体感できるよう、少人数教育を導入し、生徒の基礎・基本の定着や学び直しを支援します。新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託を進めます。

➤ 新しい学校のイメージ（現行：普通科 5 学級）

<2023 年度 校名変更・学科改編>

全日制 新たな学科	
1 年次 どちらか選択	2 年次 どちらか選択
基礎・学びなおし 習熟・特進	DX 人材育成 起業家マインド育成

※4～5 学級想定

● 御津高等学校（豊川市） ⇒御津あおば高等学校

国際教養科の多様性を尊重する教育を継承し、外国にルーツのある生徒や特別な支援が必要な生徒など、多様な生徒を受け入れるインクルーシブな学校を目指します。日本語習得や不登校の状況に応じたきめ細かな指導を行うため、少人数教育を導入するとともに、全日制課程学年制から全日制単位制への改編と、昼間定時制課程の併置を行います。新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託を進めます。

➤ 新しい学校のイメージ（現行：普通科 2 学級・国際教養科 1 学級）

<2023 年度 校名変更・学科改編・昼間定時制の併置>

全日制（単位制） 新たな学科	昼間定時制（単位制） 新たな学科
- 一般の生徒 - 卓越した言語能力をもつ生徒 - 外国にルーツがある生徒 - 特別な支援が必要な生徒	- 日本語によるコミュニケーションが困難な生徒 - 不登校生徒 など

※3 学級想定

※20 名程度想定

4. 経済社会とリンクした実践的な商業教育へのリニューアル

※2023年度実施分

商業科の生徒の多くは、就職、専門学校への進学と、早い段階での就職を目指していることから、地元企業が求める「ビジネス現場で主体的に行動できる人材」の育成を図るため、教育内容の見直しを行います。また、大学での専門分野の探究や、専門学校での高度な資格取得を目指す生徒のための対応を充実します。さらに、中学生に対する商業高校のイメージアップを図ります。

● 今後の取組の方向と 2023 年度学科改編を記載